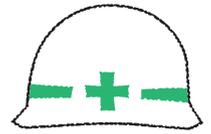
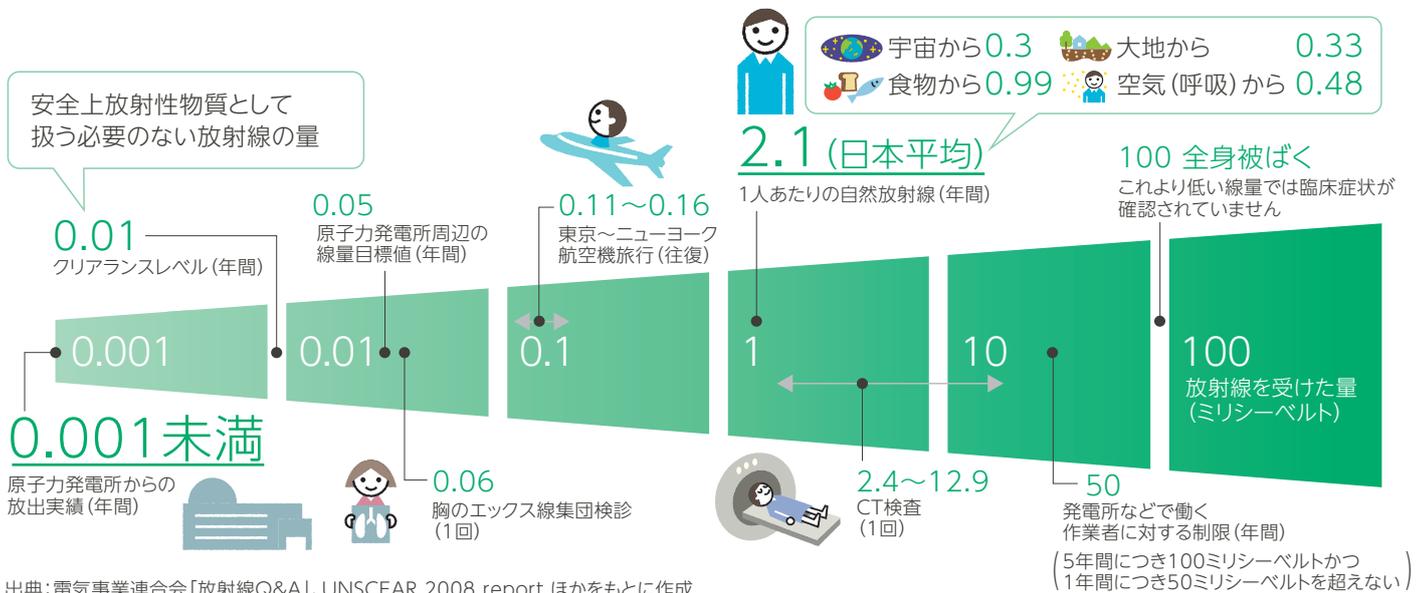


原子力発電所では、発電所周辺への放射線量の管理を徹底しています



原子力発電所周辺の人が受ける放射線の量は、自然界から受ける放射線量の2,000分の1以下です。

【日常生活と放射線の量】単位：ミリシーベルト



出典：電気事業連合会「放射線Q&A」、UNSCEAR 2008 report ほかをもとに作成

■放射線と生活習慣によって、がんになるリスク

放射線の被ばく線量が100~200ミリシーベルトあたりから、被ばく線量の増加に従い、発がんするリスクが増加します。

100ミリシーベルト以下では、放射線による発がんリスクの明らかな増加を証明することは難しいということが国際的な認識です。

放射線の線量 (短時間1回) ※1	がんの相対リスク (倍)		生活習慣因子 ※2
1,000~2,000 ミリシーベルト	1.8	1.6 1.6	喫煙 飲酒 (毎日3合以上)
500~1,000 ミリシーベルト	1.4	1.29 1.22	やせ過ぎ 太り過ぎ
200~ 500 ミリシーベルト	1.19	1.15~1.19 1.11~1.15	運動不足 塩分のとり過ぎ
100~ 200 ミリシーベルト	1.08	1.06	野菜不足
100 ミリシーベルト以下	検出不可能		

出典：国立がん研究センター「政府関係省庁「放射線リスクに関する基礎的情報」をもとに作成
※1 広島・長崎の原爆被ばく者の疫学調査 ※2 成人 (40~69歳) を対象としたアンケート調査



詳しくは裏面へ

使い終わった燃料は、再処理され、
再び燃料として利用されます。その過程で発生する
高レベル放射性廃棄物に、何重ものバリアを施し、
地下深い地層に安全に処分されることになっています。

日本では、高レベル放射性廃棄物を安定した形態に固め（ガラス固化）、地下300m以上の深い地層に安全に処分することを基本方針としています。

国の研究により、地層処分が技術的に可能で、処分施設を安全に建設できることなどが確認されており、現在、国が前面に立って、処分施設や建設地の選定について検討しています。

地層処分は、国際的にも、技術的に最も有望な方法とされており、諸外国でも取組みが進められています。

放射性物質を閉じ込める多重のバリア

